

2) クマタカ (国 RD:絶滅危惧 I B 種、県 RD:絶滅危惧 II 類)

クマタカ (留鳥) は、田代地区では 1997 年から確認され、2002 年には繁殖に成功した。その後 2006 年までは繁殖活動が見られたが (ただし、繁殖成功はなし)、2007 年以降、田代地区での繁殖活動は見られていなかった。その後、2016 年 3 月、高山の南側で交尾が 2 回確認され、繁殖の可能性が示唆されたが、幼鳥の出現が見られず、繁殖中断と判断した。2017 年にも、再び高山の東側周辺で♂♀の出現とディスプレイ行動が見られ、繁殖の可能性が示唆されたが、その後、幼鳥の出現が見られず、繁殖中断と判断した。2018 年の 2~3 月には、再度、高山東側の谷周辺で♂♀の出現やディスプレイ行動、止まりなどが確認され、繁殖の可能性が示唆され、6 月に上相賀の谷内において巣発見。10 月幼鳥 1 羽の巣立ち (繁殖成功) を確認した。2002 年田代地区での繁殖成功から 16 年目である。2019 年も同一巣で繁殖に成功したが、2020 年は巣周辺に♂♀で出現したものの、繁殖は確認できなかった。

以下、2008 年以降の出現状況を示す (図 II.4.1~13 参照)。

- ・ 2008 年は田代地区北側に位置する千葉山の東側で幼鳥が出現し、その付近で繁殖した可能性が考えられた。
- ・ 2009 年は、高山など周辺での出現はあったが、繁殖活動は見られなかった。なお田代地区の古巣 (2002 年利用巣) は、2007 年以降崩れ始め、2009 年には完全に崩落した。
- ・ 2010 年 1 月~4 月には、田代地区内に出現したが、繁殖活動は見られなかった。一方、千葉山周辺ではペアが出現し、繁殖の可能性が考えられたが、その後、8 月までの調査では幼鳥および成鳥の出現はなかった。
- ・ 2011 年 2 月~3 月の調査においても田代地区での出現はなかった。また周辺 (千葉山周辺等) での出現も確認できなかった。
- ・ 2012 年は 3 月の調査で千葉山から高山に飛翔する個体を確認した。
- ・ 2013 年は、2 月に高山頂上付近で止まり個体を確認した。3 月には高山から千葉山への飛翔個体を確認したほか、高山の頂上付近の鉄塔上に、長時間止まる個体を確認した。
- ・ 2014 年は、2 月 17 日に田代地区の西側樹林上空で 2 羽同時に出現し並んで飛翔した。また鉄塔への止まり個体も確認した。さらに同日夕方には田代埋め立て地東側の陸上競技場予定地の低空を、餌と思われるものを持って飛翔する個体を確認した。
- ・ 2015 年は、高山から田代地区に至る範囲での出現が見られ、千葉山南西斜面の茶畑でコジュケイを狙った狩行動(失敗)が見られた。
- ・ 2016 年は、3 月 1 日に高山の南側斜面でクマタカ♂♀2 羽が出現し、送電線への止まりや♀のディスプレイ行動が見られ、3 月 8 日には送電線上で 2 回の交尾を確認。また、当該ペアとは別個体 (♂) の追い出し行動も見られるなど、高山南側の谷部周辺で繁殖する可能性が示唆された。しかし、その後、この周辺で成鳥は出現するものの幼鳥が出現せず、2016 年は繁殖中断したものと推察された。
- ・ 2016 年 12 月~2017 年 8 月には、高山の東側谷部で活発な繁殖行動が見られ、繁殖の可

能性が示唆された。具体的には12月26日に♂♀のディスプレイ行動が見られ、送電線への止まりが見られた。また、2月4日には♂♀が高山の東側の谷部の樹林に入るのが確認され、2月15日高山東側における♂♀の出現、2月25日には高山山頂から東北東に約1Km離れた尾根のモミの木上で♀の誇示行動(胸を張る)が見られ、この周辺で営巣するものと推定された。3月5日の調査でも高山において♂♀の出現が確認された。

しかし、その後、高山を中心に♂♀の出現は見られたが、顕著な繁殖活動は確認できず、2017年も繁殖中断したものと推察された。







- ・ **2017年10月～2019年3月**には、2017年10月8日に高山の東側谷部で♂♀の出現を確認。12月7日には♂が高山鉄塔における長時間(2時間半ほど)の止まりののち、高山東側谷部に入るのを確認。2018年2月19日には谷入り口付近の樹林で鳴き声、また、2月26日は谷入り口付近の樹林で再び鳴き声を確認し、♂♀の出現およびディスプレイ行動および高山から東に張り出した尾根の先端部のモミから♂♀の出入りを確認した。3月3日、29日にもこの周辺で出現し、2018年の繁殖の可能性が示唆された。5月11日に当該谷内で古巣(営巣木：スギ)を発見。6月8日谷内において新巣発見(営巣木：スギ樹高37m、胸高直径64cm、巣高30m、営巣形態は樹幹型)、7月11日巣上に幼鳥1羽確認。7月15日には巣上に幼鳥なし。7月11～15日の間に巣立ちしたと考えられる。10月29日には幼鳥および♂成鳥を谷内で確認。2019年1月14日には若鳥が谷内に出現。若鳥は順調に成長しているようであった。2月22日、3月18日には成鳥♂が田代北西の319ピークを尾根沿いに出現するのを確認した。
- ・ **2019年4月～2020年3月**には、2019年7月10日に前年と同一巣で繁殖し、巣上に幼鳥1羽を確認した。本種は通常隔年繁殖することが多く、連続繁殖は珍しい事例である。2020年3月9日には高山の東側を2羽が同時出現し、♂の波状飛翔が見られた。
- ・ **2020年4月～2021年2月**には、2020年4月～12月まで出現が確認できず、前年繁殖地での繁殖はなかった(中断)と判断した(図Ⅱ.4.14)。一方、2021年1月15日には旧営巣地付近に♂が出現。その日、別個体と思われる♂が田代の矢倉山の東側尾根に出現。2月1日及び11日には♂♀が旧営巣地付近に出現。2021年度は繁殖の可能性が高いと思われる(図Ⅱ.4.15)。

高山



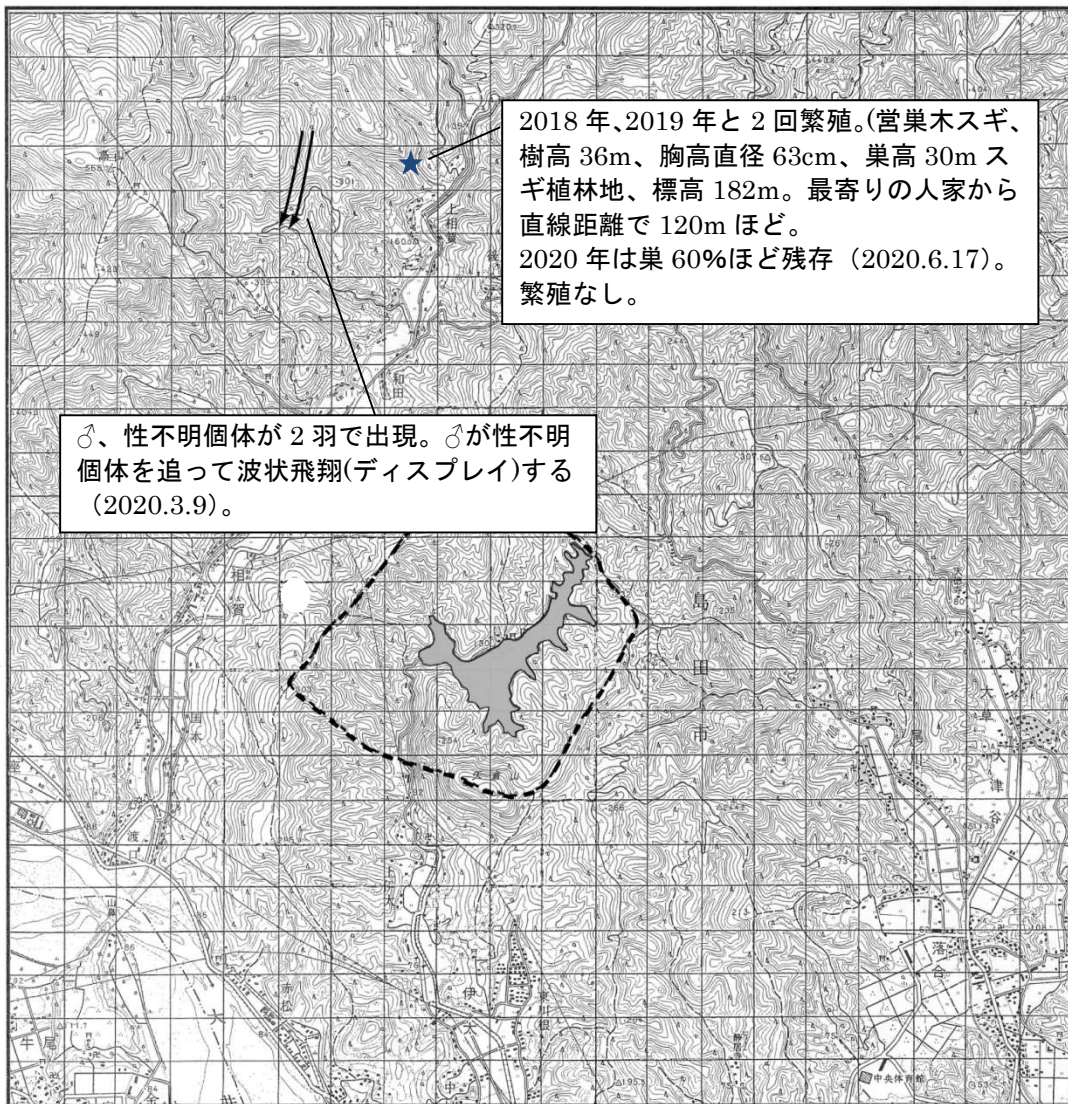
高山の東側の沢部 クマタカ繁殖地（白丸破線）。2018年6月8日新巣発見。営巣木：スギ樹高37m、胸高直径64cm、巣高30m、営巣形態は樹幹型。7月11日巣上に幼鳥1羽確認。7月15日巣上に幼鳥なし。10月29日谷内で幼鳥確認。繁殖成功。2019年7月10日巣上に幼鳥1羽を確認。同一巣において2年連続の繁殖を確認した。2020年は3月にディスプレイ行動がみられたが、その後の出現がみられず、繁殖中団と判断した。ただし、2021年1月～2月は♂♀の出現が観察され、繁殖の可能性が考えられる。

写真Ⅱ.4.2

	
<p>上相賀の2019年クマタカ営巣地 2020. 11.18</p>	<p>同左 2020.11.18</p>
	
<p>クマタカ営巣地の谷 2020.11.18</p>	<p>営巣木（スギ）と巣 2020.11.18 2020年は繁殖なし</p>
	
<p>クマタカ巣 2020.6.17</p>	<p>クマタカ♂ 上相賀 2021.2.1 2021年は営巣地周辺に♂♀で出現</p>



写真Ⅱ.4.3

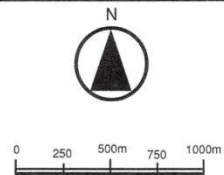
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25

凡例

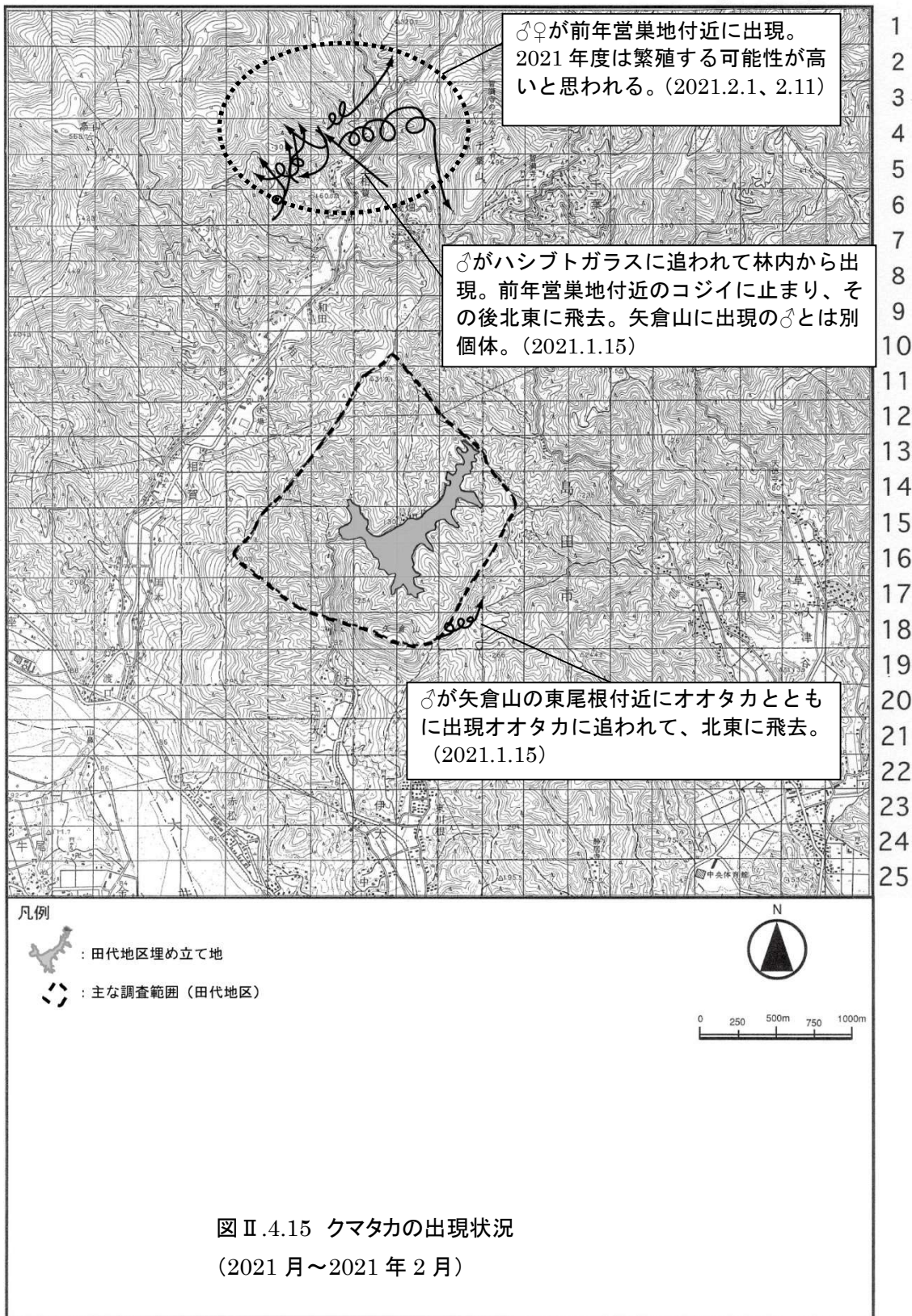
-  : 田代地区埋め立て地
-  : 主な調査範囲(田代地区)



図Ⅱ.4.14 クマタカの出現状況
(2020年1月～2020年7月)

●使用図面は国土地理院地形図1/25000 向谷(昭和63年発行)を71%縮小したものをを使用した。
●メッシュは基準地域メッシュを16分割したものを使用(1メッシュが約250×250mに相当)。

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T



●使用図面は国土地理院地形図1/25000 向谷(昭和63年発行)を71%縮小したものを使用した。

●メッシュは基準地域メッシュを16分割したものを使用(1メッシュが約250×250mに相当)。

3) オオタカ（国 RD：準絶滅危惧種、県 RD：絶滅危惧Ⅱ類）

オオタカ（留鳥）は、1996年に田代地区で確認され、1998年までの3年間繁殖に成功した。その後、クマタカの出現、繁殖活動の活発化に伴い、田代地区での繁殖活動は見られなくなったが、2007年、クマタカが田代地区で繁殖活動を行わなくなったのに呼応するように、田代地区およびその周辺の相賀地区での繁殖が確認されるようになった。

2007年以降の本種の出現状況を以下に示す。2008年～2020年の繁殖状況は図Ⅱ.4.1～13参照。

- ・2007年、田代地区内で幼鳥が出現し、繁殖成功の可能性が示唆された。
- ・2008年、田代地区および相賀地区周辺においてオオタカの営巣の可能性が考えられ、うち1カ所（田代地区：田代№1 巣）で繁殖に成功した。
- ・2009年、相賀地区においてオオタカの繁殖成功を確認した。営巣地（相賀№4 巣）は北東斜面（N43E、40°）のスギ植林の辺縁部。営巣木はスギ大径木（樹高22m、胸高直径69cm、巣高9m）、架巣形態は樹幹型、巣の大きさは径90cm*厚35cmであった。
- ・2010年は1月～4月に田代地区および周辺においてオオタカが確認された。その後、相賀地区において、前年巣より約100m離れた沢奥で繁殖に成功した。営巣地（相賀№6 巣）は沢部の北東斜面（N45E、10°）。植生はスギ・ヒノキ植林。営巣木はスギの大径木（樹高16m、胸高直径50cm、巣高13m）、架巣形態は又型、巣の大きさは径80cm*厚45cm。6月17日に巣上にヒナ2羽を確認し、7月17日にヒナ1羽の巣立ちを認める。7月27日に営巣地の尾根付近でオオタカの飛翔を確認した。そのほか、千葉山周辺や田代地区～尾川地区にかけて相賀ペアとは別ペアの可能性が高い出現が見られた。
- ・2011年は2月、3月、5月、7月に田代地区、相賀地区で本種の出現が見られ、8月5日の巣立ち幼鳥の出現により繁殖成功が確認された。利用巣は未確認。2009年利用巣（相賀№4 巣）や2010年利用巣（相賀№6 巣）の再利用はなかった。
- ・2012年は繁殖期に2カ所で出現が確認され、1カ所（相賀地区）で営巣（新巣：相賀№7 巣、営巣木：スギ）および繁殖成功（巣立ち幼鳥を認める）が確認された。
- ・2013年は、2月以降、5月、6月、7月に出現が確認された。6月は田代地区丁仏参道周辺の飛翔や、田代地区埋め立て地上空の飛翔も見られた。その一部は相賀地区方面へ飛去した。相賀地区では、2010年利用巣（相賀№6 巣、営巣木：スギ）の再利用が認められ、幼鳥の出現により繁殖成功が確認された。また2月22日に千葉山西斜面で見られた♀成鳥は、過年度情報と併せて当該ペアとは別個体と判断した。出現地点を含む千葉山の周辺に生息すると思われる。
- ・2014年は田代地区を中心に止まりや飛翔の事例が見られ、メガソーラー上空通過も1例確認された。抱卵期以降の出現事例は相賀地区営巣地周辺に集中した。営巣は相賀地区の2013年利用巣（相賀№6 巣、営巣木：スギ、ヒナの確認6月14日）の再利用が認められ、巣立ち幼鳥（7月12日）の出現により繁殖成功が確認された。なお、7月12日に巣の直下でオオタカ成鳥（オス）の捕食痕（羽）を発見した。羽軸の断面から捕食者は哺乳類

と推定された。

- ・ **2015年**は2月に田代地区および相賀地区における確認事例が多数得られ、メガソーラー上空通過も1例確認された。繁殖期には2014年営巣地（相賀地区）付近での生息（上空での餌運び飛行（4/8、6/10：育雛活動）、林内での鳴きなど）が確認されたが繁殖利用の巣は確認されなかった。ただし、7月11日に相賀地区のこれまでの営巣地の南側において一部崩落した古巣を発見した。営巣木はスギの大径木（樹高25 m、胸高直径80cm、架巣高15m）であった。2015年には当該巣を利用した可能性（ただし繁殖中断）が高いと推察された。
- ・ **2016年2月～6月**には地区を含む北西側および相賀地区で出現が見られた。3月1日には相賀地区において2015年巣（古巣）のより上部で新巣（スギ、樹高27 m、胸高直径33cm、架巣高10 m）を確認した。その後、5月6日に♂成鳥の餌運びを確認。5月28日には巣上にヒナ2羽を確認。6月27日にはノスリやカラスを攻撃するのが確認された。巣立ちを確認していないが、繁殖に成功したものと思われる。なお、4月22日には田代地区の植物注目種移植地A地区で、オオタカによるものと見られるアオバトの捕食痕を発見。ここでは以前（2014.12.10）にもアオバトの捕食痕を見つけており、獲物の解体場になっているようである。

2016年11月22日に相賀の営巣地付近に成鳥の出現を確認。12月24日には営巣地付近からオオタカ♂成鳥が飛び出し、別個体の♂への攻撃を確認。12月26日、営巣地付近の鉄塔における♂成鳥の止まりを記録。
- ・ **2017年**は2月15日千葉山と高山の間の上相賀付近での出現と♂の長時間の止まりを確認。出現地点は相賀地区の営巣地の北北東約2.5kmに位置し、相賀地区の繁殖個体とは異なる可能性が高い。2月25日には営巣地付近および高山の南東斜面での出現が確認された。また、3月5日には田代地区の調整池付近から旧クマタカ営巣地付近にオオタカ♂が出現。その後、2017年4月29日、相賀の前年巣にて抱卵（巣に綿毛付着）を確認。6月18日巣上にヒナ3羽を認める。7月23日幼鳥の巣立ち（繁殖成功）を確認した。
- ・ **2018年**は、1月18日、♀が相賀に出現。2月15日には田代北側に出現し、田代の旧オオタカ営巣地付近の谷に入る。また、田代の動物移動路（グリーンベルト）上でワシタカ類によると思われるシロハラ捕食痕を確認した。3月12日にも田代において本種の出現を確認した。相賀では4月20日これまでの営巣地において、抱卵を確認。6月18日、巣上に幼鳥1羽を確認。7月12日には幼鳥の巣立ち（繁殖成功）を確認した。
- ・ **2019年**は、2月22日には田代地区の北側から西側にかけて♂♀で出現した。田代地区における繁殖の可能性が期待された。田代地区から相賀地区にかけて出現した。4月27日に前年の巣を確認したところ崩落しており、30 m下方に新巣を発見した。しかし、6月14日には当該巣も崩落し、落下巣の中に産座を確認した。卵殻はなく、産卵直前に放棄したものと思われる。
- ・ **2020年**は、1月10日に♀が主尾根の鉄塔（A）に止まり。その後、相賀側（南西側）に

飛び立ち、消失。5月12日には♀が相賀の浄水場の南側尾根上に出現し、北西方向に飛び、相賀谷を横切り、高山側の山裾の谷に入る。当該♀は胸の羽毛が一部抜け、抱卵の可能性はある。これまでの相賀の営巣地について、周辺を含め踏査したが、巣は発見できなかった。2020年度の繁殖成功はなかったと判断した（図Ⅱ.4.16）。

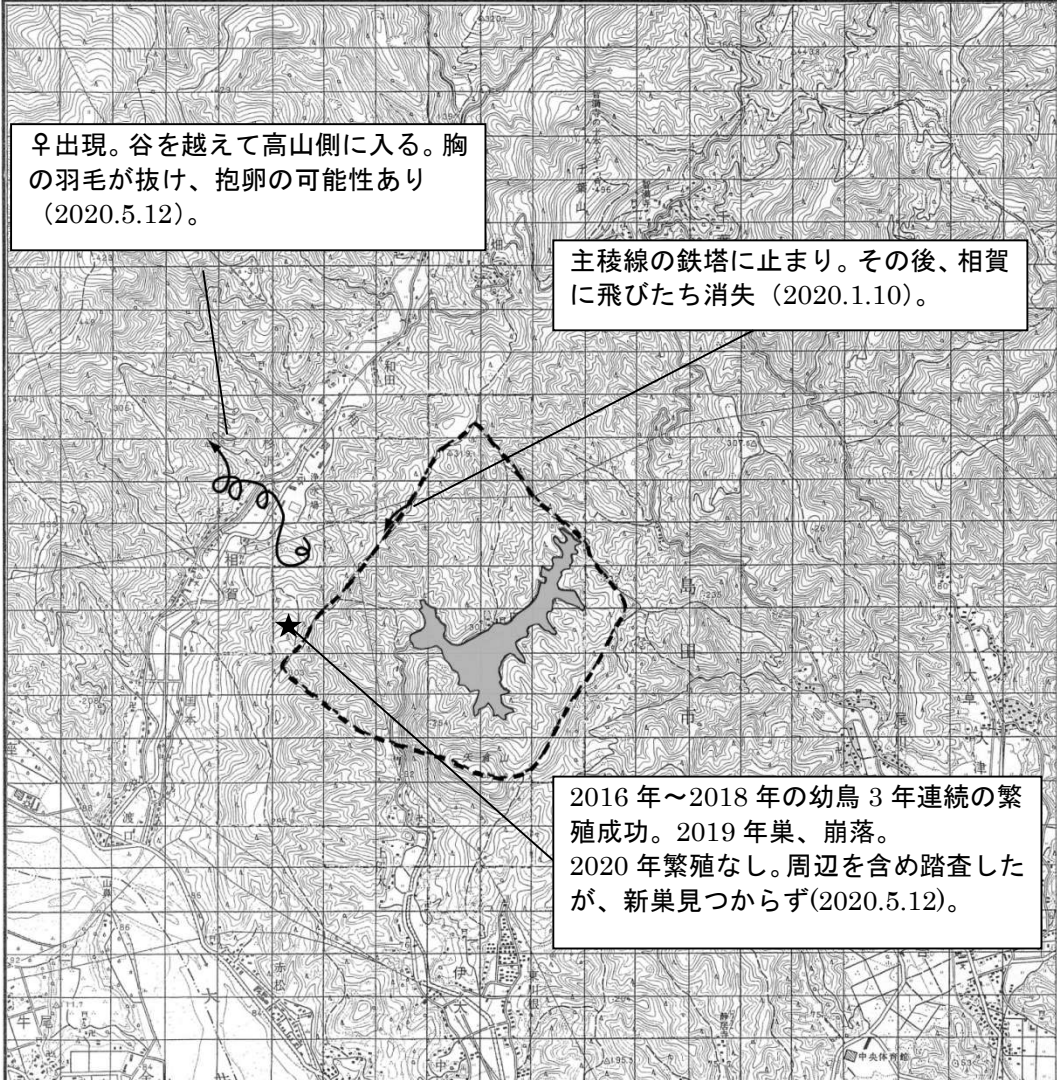
その後、12月3日に♂成鳥が田代北側鉄塔に1時間43分（観察時間）の長時間の止まりが観察された。

- **2021年**は、1月15日、♂成鳥が田代の長大のり面对岸のコジイの横枝に止まり。36分後、丁仏参道入り口への車の進入に反応して北西の林内に飛び消失。消失した付近のスギの樹頂に再度♂止まりを発見。長大のり面部の道路に人（ハイカー）が来たため、北西の林内に飛び込み消失。2月1日および11日に♂成鳥が高山の南東山裾付近に出現した（図Ⅱ.4.17）。





写真Ⅱ.4.4 オオタカ、高山、南東山裾、スギの樹頂に止まり(2021.2.1)

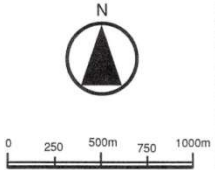
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25

凡例

-  : 田代地区埋め立て地
-  : 主な調査範囲 (田代地区)



図Ⅱ.4.16 オオタカの出現状況
(2020年1月～2020年7月)

●使用図面は国土地理院地形図1/25000 向谷 (昭和63年発行) を71%縮小したものをを使用した。
●メッシュは標準地域メッシュを16分割したものを使用 (1メッシュが約250×250mに相当)。

4) サシバ (国 RD : 絶滅危惧Ⅱ類、県 RD : 絶滅危惧Ⅱ類)

本種は夏鳥である。3月～4月頃日本に渡来・繁殖し、9月末～10月にかけて渡去する。

田代地区では1998年に繁殖の可能性が考えられたが、その後繁殖の兆候はなく、繁殖が確認されたのは2007年以降である。2007年以降の本種の出現状況を以下に示す。2008年～2020年の生息状況は図Ⅱ.4.1～13参照。

- ・2007年は田代地区内およびその周辺で繁殖の可能性が考えられた。
- ・2008年も同様に、田代地区内およびその周辺で繁殖の可能性が考えられた。
- ・2009年は4カ所で繁殖が確認され、うち2カ所(1カ所は田代地区)で繁殖成功を確認した。営巣地は1カ所(尾川地区:営巣木スギ、樹高20m、胸高直径34cm)を確認。
- ・2010年1月～8月は、これまで同様、田代地区および周辺において広く本種の出現が認められた。田代地区、尾川地区、千葉山の南西、高山の南西の4カ所で繁殖の可能性が示唆され、このうち相賀地区では交尾などの観察により、尾川地区では威嚇行動により繁殖の可能性が高いと判断された。なお尾川地区の2009年利用巣(スギ)では繁殖後落巣が確認されており、当該カ所への再造巣は見られなかった。
- ・2011年は田代地区で1カ所、尾川地区と相賀地区ではそれぞれ2カ所、合計5カ所の繁殖地が抽出された。田代地区では繁殖成功(巣立ち幼鳥)を確認した。なお本種の2011年の初認は3月31日(田代地区、矢倉山付近)であった(2010年は4月18日)。
- ・2012年は田代地区で2カ所(田代地区の北側と南側でそれぞれ1カ所、北側の範囲は相賀地区にまたがっている)、尾川地区で1カ所、合計3カ所の繁殖地が抽出された。このうち尾川地区では繁殖成功(巣立ち幼鳥)を確認した。
- ・2013年は尾川地区で営巣を確認し、繁殖成功(巣立ち)と推測した。そのほか3カ所で尾川のペア以外の個体が確認された。それぞれで繁殖活動を行っている可能性があるものの、手掛かりは得られなかった。
- ・2014年は尾川地区で営巣と巣立ち(繁殖成功)を確認した。そのほか2カ所で尾川のペア以外の個体が確認された。それぞれで繁殖活動を行っている可能性があるものの、営巣地を特定する手掛かりは得られなかった。
- ・2015年は田代北～相賀、尾川、田代、相賀の4カ所でサシバの繁殖活動が確認された。このうち、田代北～相賀地区では8月5日に3羽の同時出現を確認。♂♀成鳥と幼鳥の可能性があり、繁殖成功の可能性が考えられた。そのほかの3地点では、繁殖の成否は確認できなかった。なお、尾川地区ではこれまでの営巣木の直下において5月1日に糞が確認され、巣の利用が考えられた。
- ・2016年は相賀地区と田代地区、尾川地区の3カ所でサシバの出現が見られ、このうち相賀では餌(トカゲ大)運び(2016.5.3:抱卵期)、林内から♂♀2羽での飛び立ち(2016.6.27:巣立ち期)を確認。幼鳥は認めていないが、繁殖したものと思われる。田代地区は7月7日に調整池付近で1回出現を確認。繁殖活動は確認できなかった。尾川地区は渡来初期(2016.5.3)に旧営巣地において鳴き交わしを記録したが、近くの送電線周辺の伐採

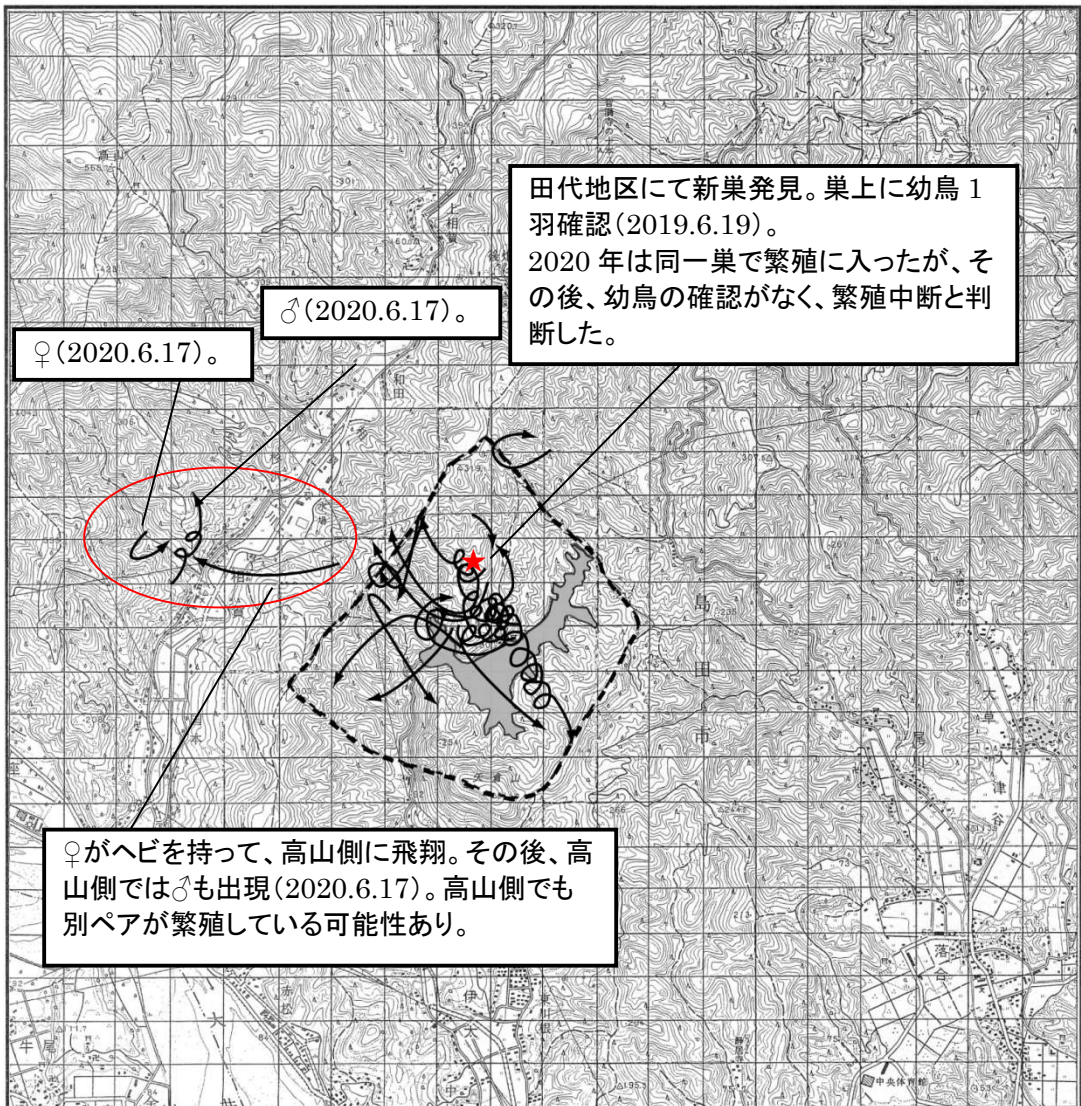
やアマチュアカメラマンなどの影響のためか、2015年営巣地（スギ）での繁殖は見られなかった。繁殖中断と判断した。

- **2017年**は3月31日に田代の運動公園に♂♀で出現。その後、田代の北側に出現。6月3日に尾川の旧巣の北西200mほど先、林道の終点部のスギ（樹高20m、胸高直径64cm）に新巣を発見。7月7日に幼鳥の巣立ち（繁殖成功）を確認した。なお、その他の地域（田代、相賀）での繁殖は確認できなかった。その後、7月28日、田代の南（環境プラザ周辺）でサシバ♀の出現（ノスリを攻撃）を記録した。
- **2018年**は3月29日に千葉山西側の斜面に出現。その後、田代を中心に♂♀で多く出現。エサを運ぶのを2回確認（6月22日：トカゲ、7月15日：ヘビ）。9月22日には田代の西側から東にソーラーパネルを横切って飛翔。ただし、巣および繁殖の成功は確認できなかった。
- **2019年**は田代地区を中心に多く出現し、6月19日、田代地区内の沢部（旧オオタカ営巣地近く）において新巣を発見し、巣上に幼鳥2羽を確認した。田代地区内ではこれまでもサシバの繁殖の可能性が考えられたが、営巣木を見つけたのはこれが初めてである。営巣木はスギ（樹高24m、巣高15m、胸高直径55cm、架巣形態：樹幹型）であった。
- **2020年**は4月～7月にかけて田代地区を中心に多く出現した。6月8日は田代のサシバの前年営巣地において巣付近で羽根1枚を確認。また巣下では糞も確認した。今年も同一巣で繁殖している可能性が高いと考えられた。しかし、その後、幼鳥の出現がなく、2020年度は繁殖中断したと判断した（図Ⅱ.4.18）。なお、相賀では6月17日に田代とは別ペアと思われる個体（♂♀）が出現し、高山の南側山裾樹林に♀が餌（ヘビ）を持って飛び込むのを確認。田代とは別ペアが高山側で繁殖している可能性が示唆された。



写真Ⅱ.4.5 田代地区のサシバ

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25



田代地区にて新巣発見。巢上に幼鳥 1羽確認(2019.6.19)。2020年は同一巣で繁殖に入ったが、その後、幼鳥の確認がなく、繁殖中断と判断した。

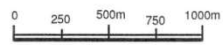
♂(2020.6.17)。

♀(2020.6.17)。

♀がへびを持って、高山側に飛翔。その後、高山側では♂も出現(2020.6.17)。高山側でも別ペアが繁殖している可能性あり。

凡例

-  : 田代地区埋め立て地
-  : 主な調査範囲(田代地区)



図Ⅱ.4.18 サシバの出現状況
(2020年1月～2020年7月)

●使用図面は国土地理院地形図1/25000 向谷(昭和63年発行)を71%縮小したものをを使用した。
●メッシュは基準地域メッシュを16分割したものを使用(1メッシュが約250×250mに相当)。

5) ハチクマ (国 RD : 準絶滅危惧種、県 RD : 絶滅危惧Ⅱ類)

本種はサンバ同様、夏鳥である。5月頃日本に渡来、繁殖し、9月末～10月にかけて渡去する。

2007年以降の本種の出現状況を以下に示す。2008年～2020年の生息状況は図Ⅱ.4.1～13参照。

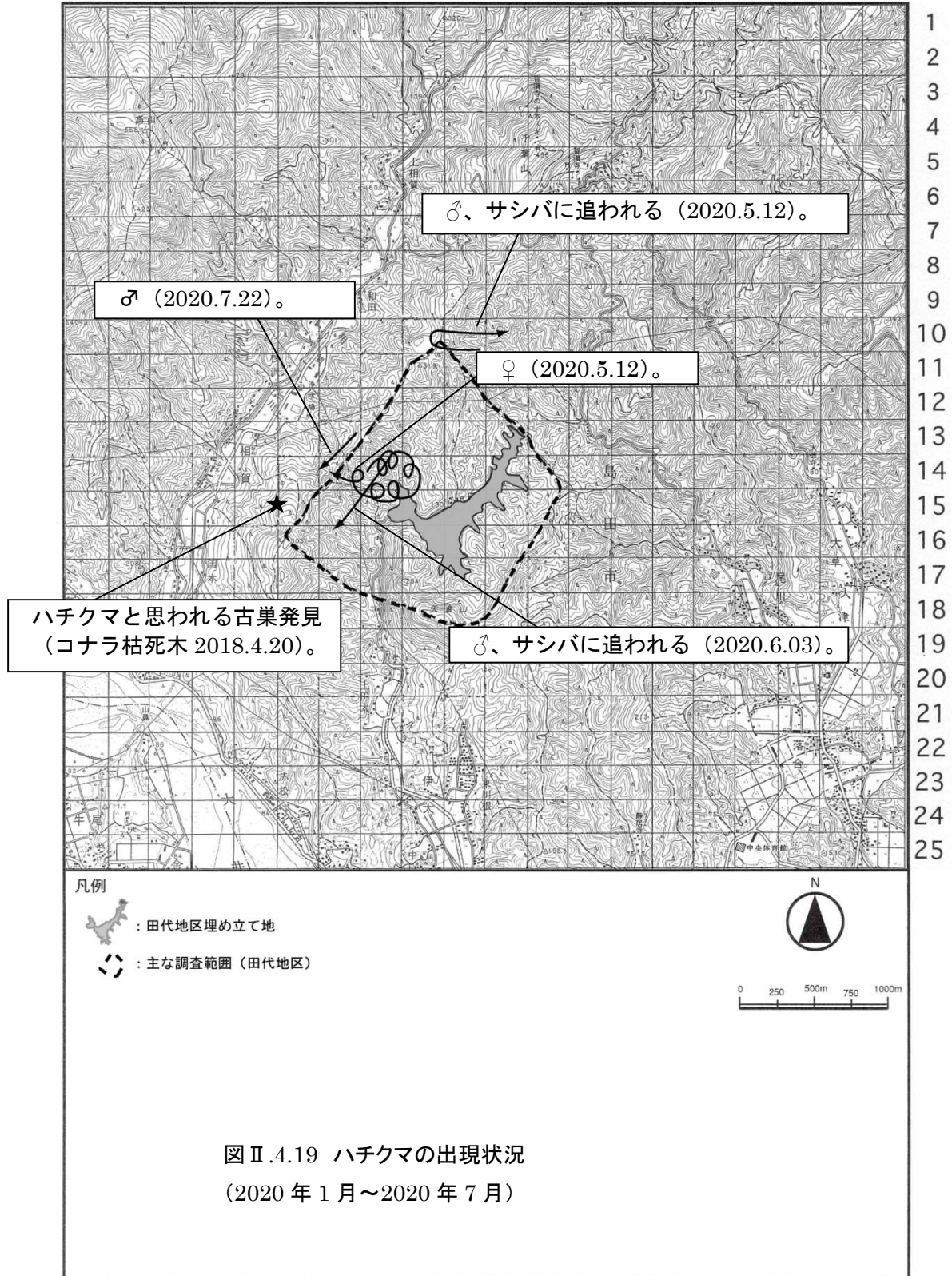
- ・2007年、田代地区で幼鳥を確認、繁殖に成功したと考えられる。
- ・2008年、田代地区1カ所で繁殖活動（繁殖の成否不明）が認められた。
- ・2009年、田代地区1カ所で繁殖活動（繁殖の成否不明）が認められた。
- ・2010年、田代地区においてハチクマの出現が確認され、8月9日には5羽の同時出現が認められた。5羽は成鳥2羽と幼鳥3羽の家族群と考えられ、確認地点周辺（319ピーク付近）で繁殖に成功したものと考えられた。2007年～2008年の出現も319ピーク付近であることから、毎年この付近が営巣地になっているものと考えられた。
- ・2011年は田代地区と相賀地区でそれぞれ1カ所、合計2カ所の繁殖地を認めた。田代地区では繁殖成功（巣立ち幼鳥）を確認した。
- ・2012年は田代地区と相賀地区にまたがる範囲の繁殖地を認めた。さらに相賀地区の北側で生息を確認したが、当該地では繁殖活動は確認されなかった。
- ・2013年は田代地区と相賀地区にまたがる範囲の繁殖地を認めた。ここでは誇示行動や排斥行動などの繁殖活動が認められた。また餌運びも2回確認され、営巣は確実と思われたが、巣の発見には至らなかった。
- ・2014年は田代地区での繁殖が認められた。ここでは頻繁に誇示行動などの繁殖活動が認められた。矢倉山北斜面の谷からの出現、同じ谷への飛び込み、あるいは谷を見下ろす斜面での長時間の止まりも確認され、営巣は確実と思われたが、巣の発見には至らなかった。
- ・2015年は田代～相賀にかけて抱卵期～巣内育雛期（5～7月）出現し、巣外育雛期の8/11にハチクマが3羽同時出現したのを確認した。♂♀成鳥のペアと幼鳥の可能性が考えられ、繁殖成功が示唆された。
- ・2016年は6月11日に田代地区の東側尾根、6月27日には相賀地区の高山の南東斜面において出現を確認したのみであり、繁殖活動は確認できなかった。
- ・2017年は7月7日に田代地区の東側尾根～西側にかけて、♂♀での出現を確認したのみであり、繁殖活動は確認できなかった。
- ・2018年は5月25日に319ピーク周辺に♂が出現。6月22日に田代地区の西側尾根に♂♀で出現。7月15日には千葉山の南側で山腹に出現した。5月～7月まで出現し、♂♀でも出現が確認されていることから、繁殖にかかわったと思われるが、詳細は不明である。

なお、4月に相賀のオオタカ営巣地の近くでコナラの枯れ木に古巣を発見した。巣の大きさや営巣木から本種のものである可能性が考えられたが詳細は不明である。
- ・2019年は6月2日に田代地区内にて♂♀同時飛翔を確認したのみであり、繁殖の有無は不明であった。

- ・ **2020年**は田代地区内において5月♂♀、6月、7月とも♂の出現を確認した(図Ⅱ.4.19)。前年同様、繁殖の有無は不明であった。

本種は2007年田代地区における幼鳥の確認をもって繁殖成功として以降、2021年まで毎年田代地区に♂♀で出現し、2010年と2011年は幼鳥を確認している。本種は広葉樹の大径木に営巣することが多く、針葉樹に営巣するオオタカやクマタカよりも巣を探すのが難しい。田代地区内では2013年、2014年と行ったが、見つけることはできなかった。なお、2018年には相賀のオオタカ営巣地付近でコナラの枯れ木に本種の古巣と思われるものを確認した。

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T



6) 猛禽類4種の繁殖状況の推移

これまでの調査で確認されたクマタカ、オオタカ、サシバ、ハチクマの年別繁殖状況を図Ⅱ.4.20、図Ⅱ.4.21、表Ⅱ.4.3に示した。

田代地区では1996年～1998年にかけてオオタカが繁殖に成功していたが、その後、クマタカの出現頻度が増すにつれ、営巣しなくなった。一方、クマタカは2002年の田代地区での繁殖成功以降、2006年の繁殖期まで2002年営巣地に出現（造巣活動）していたが、2007年以降、当該営巣地への出入りがなくなり、古巣も崩れ出した。この動きに呼応するように2007年以降、オオタカ、サシバ、ハチクマが田代地区およびその周辺地域で繁殖活動に入るようになった(図Ⅱ.4.20)。

田代地区およびその周辺域における猛禽類の繁殖利用はオオタカ→クマタカ→オオタカ・サシバ・ハチクマと推移している。特に2007年以降はクマタカが営巣しなくなるという「ニッチ¹の空き」に対応して、ほかの猛禽類（オオタカ、サシバ、ハチクマ）が一斉に入ってくるように見え(図Ⅱ.4.21)、種類間の緊密な関係性が推察された。

¹ ニッチ：生態的地位。ある種がその個体群を維持することができる環境要因や、食物などの生活資源の範囲を示す。ニッチの用語は、本来、花瓶などを置くために作られた壁のくぼみの意味で使われた。(生態学事典、2003、共立出版より)

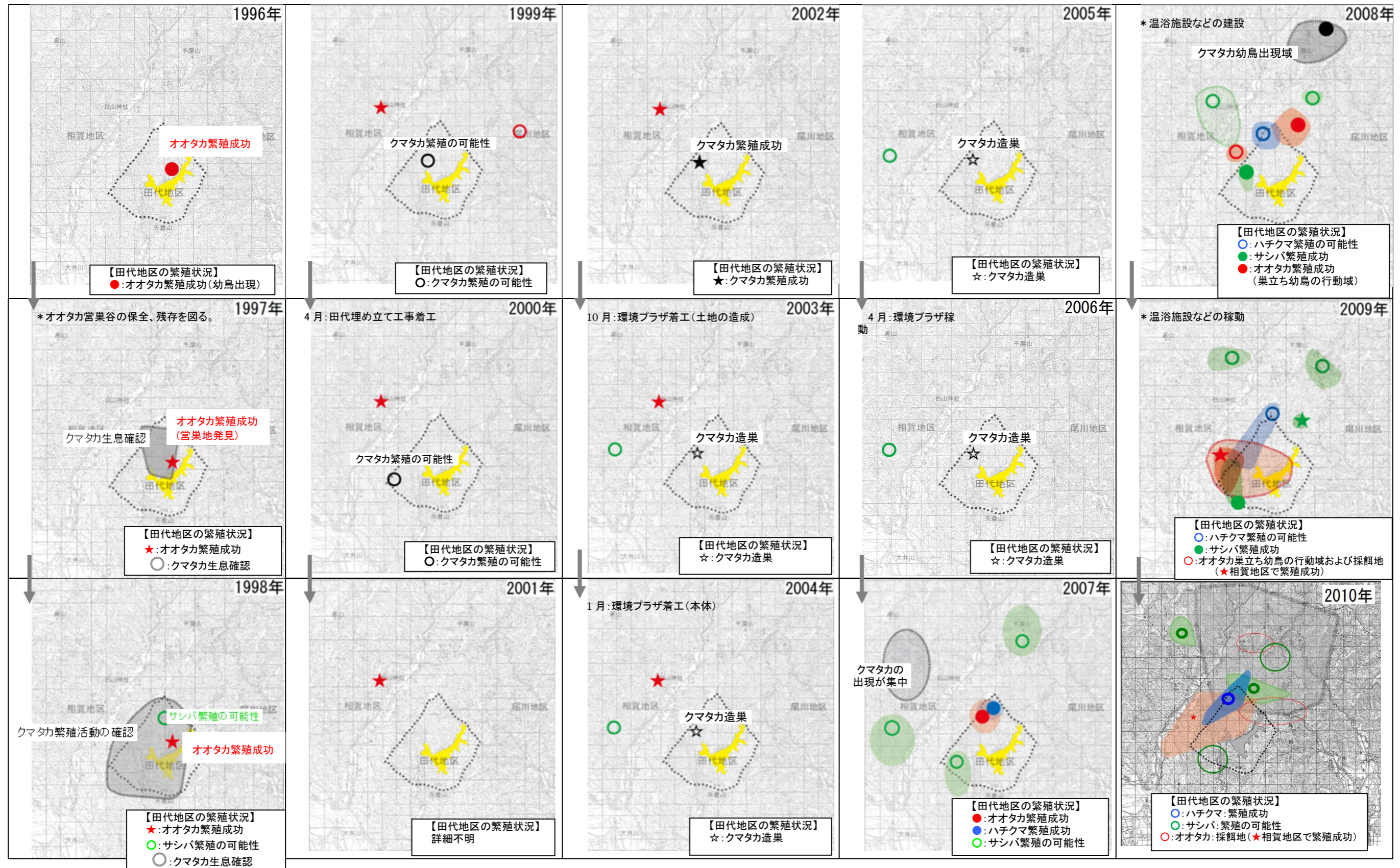


図 II.4.20 島田市田代地区における猛禽類の繁殖状況(1/3)

凡例

- 田代地区埋立地
- 主な調査範囲(田代地区集水域)

- 営巣地・繁殖成否の凡例
- ★:営巣確認、繁殖成功
 - ☆:営巣確認、繁殖中断
 - :営巣地未確認、繁殖成功
 - :営巣地未確認、繁殖の可能性

- 色の凡例
- (黒):クマタカ
 - (赤):オオタカ
 - (緑):サシバ
 - (青):ハチクマ

- 行動域の凡例
- :推定される営巣中心域
 - :主な行動域

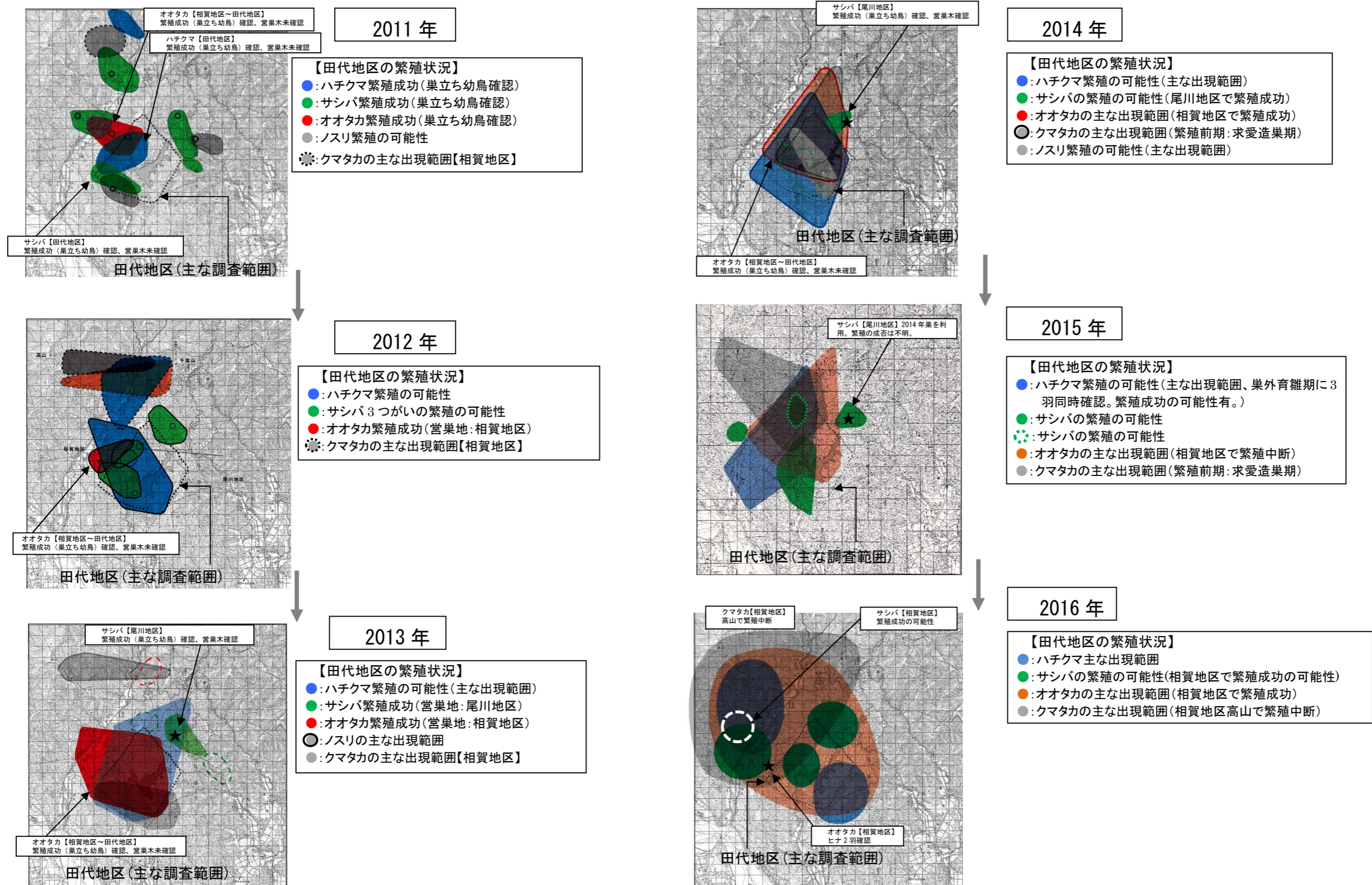
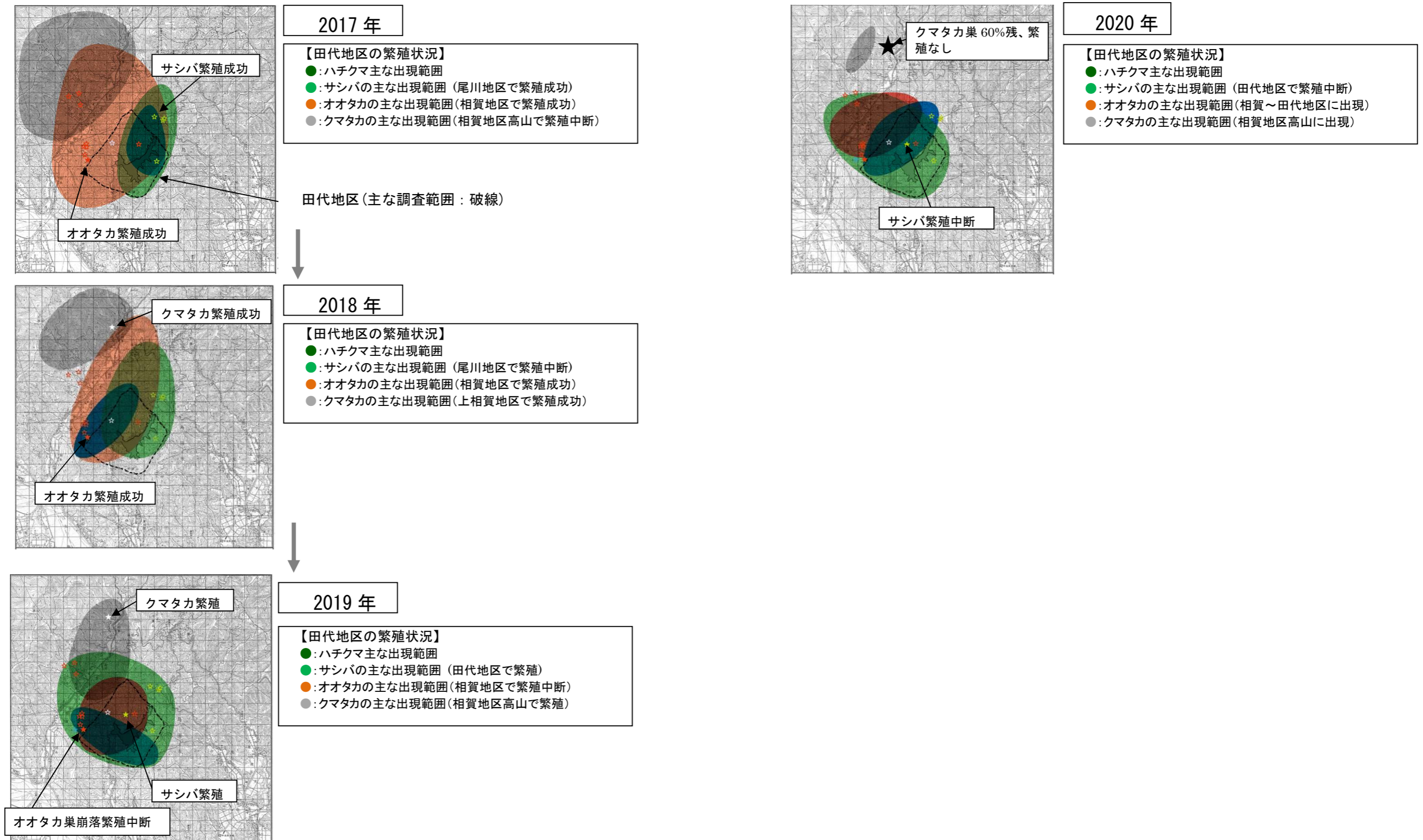
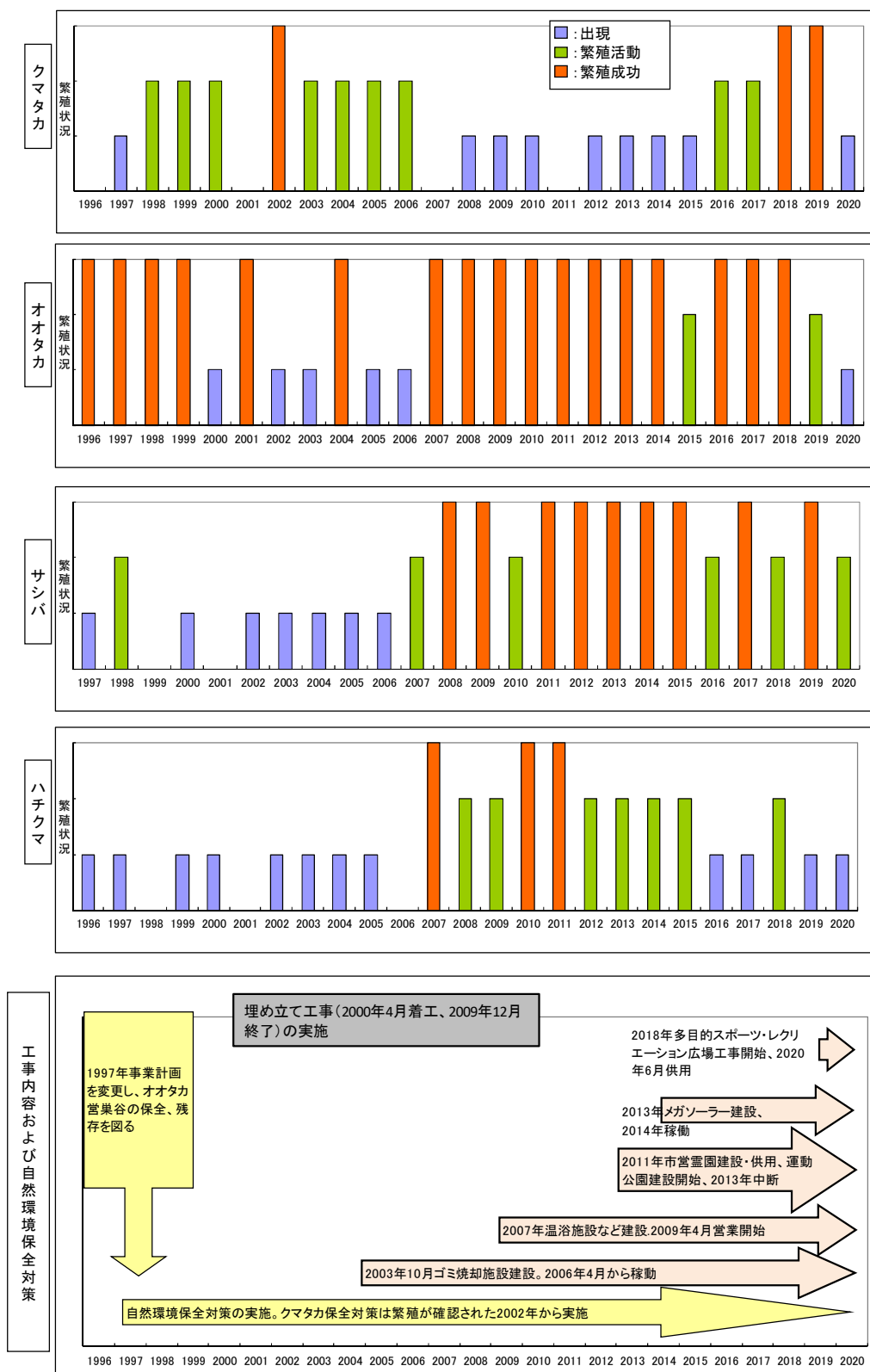


図 II.4.20 島田市田代地区における猛禽類の繁殖状況(2/3)



図Ⅱ.4.20 島田市田代地区における猛禽類の繁殖状況(3/3)



* : 2001年のクマタカについては、7月1回の調査のみで、本種の出現なし。ただし、2000年8月～12月の本種の出現状況および2002年3月の営巣地発見からすると、2001年も繁殖活動に入っていた可能性が高い。

図Ⅱ.4.21 島田市田代地区における猛禽類の繁殖状況と主な工事内容および自然環境保全対策

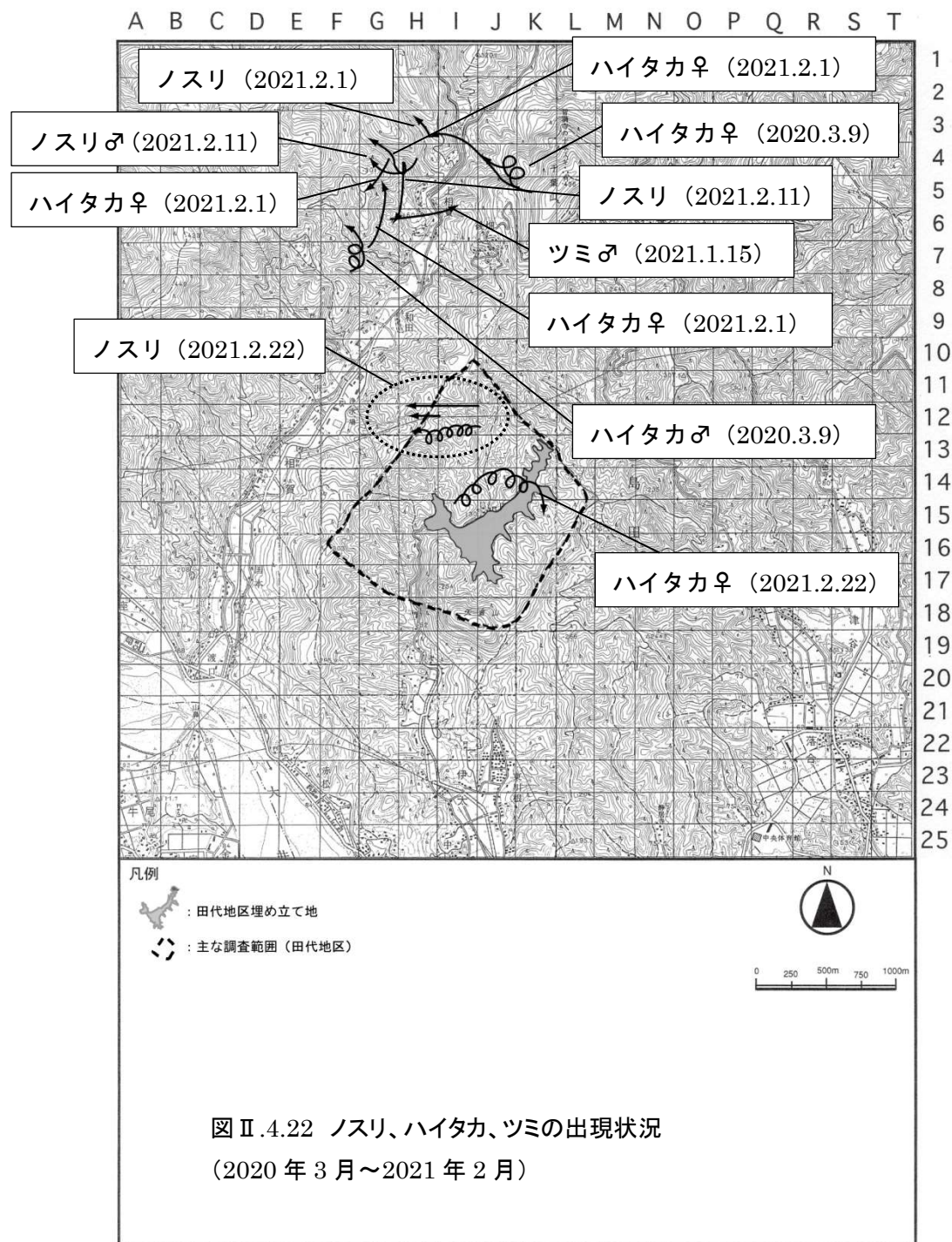
表Ⅱ 4.3 猛禽類4種の繁殖状況一覧

種名	調査年										1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
	No	地区	標高(m)	地形	方位(°)	傾斜(°)	樹種	樹高(m)	胸高直径(cm)	架業高さ(m)																									
クマタカ	未確認	田代	—	—	—	—	—	—	—	—	△	◎	◎	◎	—	—	—	◎	◎	◎	—	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	未確認	千葉山	190	急斜面上部	S32W	48	モミ	20	65	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	未確認	高山	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	未確認	高山	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	未確認	高山	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	未確認	田代北	138	斜面下部	S	30	スギ	25	48	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	未確認	田代北	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	未確認	千葉山南	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	未確認	白山神社	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	未確認	白山神社	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	未確認	相賀	154	平坦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	未確認	相賀	135	斜面下部	N68E	20	スギ	22	69	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	未確認	相賀	170	斜面上部	N45E	10	スギ	16	50	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	未確認	相賀	165	斜面中部	N45E	28	スギ	17	57	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
未確認	相賀	218	斜面中部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
未確認	相賀	240	斜面上部弱い沢地形	E	10	スギ	27	33	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
未確認	相賀	213	斜面上部弱い沢地形	N80W	10	スギ	25	60	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
未確認	相賀北	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
未確認	田代	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
未確認	田代	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
未確認	尾川	185	斜面上部	N40E	40	スギ	20	34	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
未確認	尾川	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
未確認	尾川	140	沢平坦部	S	3	スギ	25	54	21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
未確認	尾川	—	沢平坦部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
未確認	尾川	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
未確認	尾川南	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
未確認	尾川東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
未確認	相賀北	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
未確認	相賀南	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
未確認	千葉山南	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
未確認	田代	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
未確認	相賀	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

* No.の付与は発見順である。
 凡例 ● 繁殖成功(可能性(ヒナの確認を含む))、幼鳥立ち幼鳥確認、数字:ヒナの数 * :2016年相賀地区においてサシバの飛び出し(6.27)を確認。
 ◎ 繁殖中絶(遺棄もしくはヒナ確認) △ 繁殖中絶(フェイスレイ・交尾確認) ○ 出現のみ
 — 出現なし
 / 巢の未利用(崩落および崩落後の再産卵なしを含む)を確認

7) その他の猛禽類

2020年1月～2021年3月までに出現した主要4種以外の猛禽類ではトビ、ノスリ、ハイタカ、ツミが挙げられる(図Ⅱ.4.22)。ノスリは2021年2月1日、11日に高山東側山裾の上相賀周辺、2月22日には田代地区にて北側送電線付近で確認した。ハイタカは2020年3月9日に高山～千葉山にかけて♀♂が出現し、2021年2月22日に田代地区で♀を確認した。ツミは2021年1月15日に上相賀地区で♂を確認した。



図Ⅱ.4.22 ノスリ、ハイタカ、ツミの出現状況
(2020年3月～2021年2月)

●使用図面は国土地理院地形図1/25000 向谷(昭和63年発行)を71%縮小したものをを使用した。
●メッシュは基準地域メッシュを16分割したものを採用(1メッシュが約250×250mに相当)。

8) 鳥類全般の出現状況

これまでの各種調査時（1996年10月～1998年2月、2002年4月～2021年2月）に観察された鳥類は16目47科126種（2020年度は58種確認）となった（表Ⅱ.4.4）。

そのうち、注目種として「種の保存法²」の指定種³が2種（クマタカ、オオタカ⁴）、環境省の「レッドデータブック⁵」掲載種（ワシタカ類8種とミゾゴイ、ヨタカ、タカブシギ：2014年初記録、タマシギ：2014年初記録、コアジサシ、ブッポウソウ、ヤイロチョウ、サンショウクイ、ノジコなど）が合計17種、さらに静岡県版レッドデータブック⁶記載種（アオバズク：2015年初記録、アカショウビン、フクロウなど）が28種抽出された。注目種の合計は種になる。以下に注目種（ワシタカ類以外）の出現状況を示す。

2008年は田代地区周辺においてミゾゴイの繁殖、ヤイロチョウの出現が見られた。

2009年にはミゾゴイのほか、ブッポウソウを確認。

2010年はコシアカツバメ、サンショウクイ、サンコウチョウなど夏鳥が多く確認された。

2011年はミゾゴイ、アカショウビンを確認。

2012年はミゾゴイ、コシアカツバメ、サンショウクイ、サンコウチョウを確認。

2013年はアカショウビン、サンショウクイ、サンコウチョウ、コシアカツバメを確認。

2014年は初出のタカブシギ、タマシギのほか、ミゾゴイ、アカショウビン、サンショウクイ、サンコウチョウ、コシアカツバメを記録。

2015年は初出のアオバズクのほか、タマシギ、フクロウ、アカショウビン、サンショウクイ、サンコウチョウ、コシアカツバメを確認。

2016年はミゾゴイ、アカショウビン、ヤイロチョウ、サンショウクイ、サンコウチョウ、コシアカツバメ（環境プラザに営巣）を確認。

2017年はフクロウ、アカショウビン、ヤイロチョウ、サンショウクイ、サンコウチョウ、コシアカツバメを確認。

2018年はヤマドリ、ミゾゴイ、チュウサギ、フクロウ、アオバズク、アカショウビン、ヤイロチョウ、サンショウクイ、サンコウチョウ、コシアカツバメを確認。

2019年はフクロウ（図Ⅱ.4.11）、ヤイロチョウ、アカショウビン（図Ⅱ.4.12）、サンショウクイ、サンコウチョウ、コシアカツバメを確認。

2020年はチュウサギ、フクロウ、アカショウビン、サンショウクイ、サンコウチョウ、コシアカツバメを確認した。なお、2021年2月1日の調査で出現したサンショウクイが出現したが、これは近年分布を拡大している亜種のリュウキュサンショウクイであった。本亜種は元来琉球諸島に生息する種であるが、温暖化に伴い生息域を拡大し、2017年以降、関東地方でも確認されている。

²絶滅のおそれのある野生動植物種の保存に関する法律

³希少野生動植物種

⁴オオタカは、本法律施行令の1部を改正する政令（2017年9月21日施行）によって削除された

⁵改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類 環境省 2002

⁶静岡県版レッドデータブック まもりたい静岡県の野生生物 動物編 静岡県 2018

これまで示してきたように、当該地域は、工事開始(2000年)後も、クマタカ、オオタカ、ハイタカ、サシバ、ハチクマ、ノスリ、フクロウ、アオバズクなど多様な猛禽類が出現するほか、アカショウビン、ヤイロチョウ、サンショウクイ、サンコウチョウなどの注目種も確認されており、良好な自然環境が維持されているものと評価できる。